

# 埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 埼臨技 新入会員向け研修会開催

埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会が6月28日(金)大宮ソニックシティ601号室で開催され、75名(会員:72名 非会員:3名)の方々が参加した。研修会は講演1として埼臨技会長の神山清志氏より日臨技・埼臨技の歴史や事業内容、現在の医療業界における臨床検査技師の立ち位置について、講演2、講演3では深谷赤十字病院の清水彩夏氏、中島舞氏を招いて深谷赤十字病院の日当直業務の現状や検査データの読み方について講演していただきました。日当直業務における新人教育の苦勞、採血手技や輸液混入などによる検査値の偽高値や偽低値などがクイズ形式で出題されており、新入会員・入会予定の方々にとりまして、大変有意義な研修会であったと思います。

以下に研修会に参加した新入会員の方々の感想を掲載します。

医療法人 秀和会 秀和総合病院  
佐野 陽菜



埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会に、参加しました。神山会長による日臨技・埼臨技についてのご講演では、技師会の活動や臨床検査の必要性など教えていただきました。

特に職場内だけではなく、他職種や病院外の技師との関わり合いも大切していくことの重要性についてのお話が印象に残りました。

清水氏・中島氏による当直業務についてのご講演では、予期せぬトラブルの対応や検体と結果の確認について学び、1人で全ての業務を出来るようにしなければならぬと改めて感じました。

また、懇親会では他施設の方々と、いろいろな情報を共有することができ、楽しいひとときを過ごしました。

今後も積極的に技師会活動に参加し、勉強したいと思います。

今回、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

株式会社 アムル  
小松 瑞貴



埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会に参加しました。技師会については、検査技術、検査知識のレベルアップのための研修会・学会の開催や教育研修事業、精度保証事業など他にも様々な活動を行っていることを知りました。初めて具体的な技師会の活動内容を学び、臨床検査技師が働く上でより良い環境づくりがなされていると感じました。臨床検査技師としての心得については、検体は「物」ではなく、検体の背景には病気に苦しむ患者さんが存在するというのを改めて認識し、検体検査に従事している身としてこのことを常に意識

しなければならぬと強く感じました。当直勤務については、過誤要因による検査値への影響や検査データの見方など学ぶことができ、今後の実務に生かせる内容でした。

研修会を通して今後も技師会が開催する研修会に参加し、検査の基礎から新しい知識まで幅広く学びたいと思いました。また、技師会の「横のつながり」を大切に、自分の分野以外にも視野を広げられるようにしていきたいと考えています。

株式会社 アムル  
甲田 摩椰



埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会に参加しました。研修会の内容は、「埼臨技・日臨技の紹介」「当直時に注意すべき事項」でした。

第 1 部では、神山会長から技師会の紹介と現在の臨床検査技師の立場についての話でした。臨床検査技師は国家試験に合格した者が免許を有するが、臨床検査技師等に関する法律では、無資格者でも「自分は臨床検査技師である」と詐称さえしなければ検体検査業務ができると解釈でき、社会的に許されるかは別として、名称さえ使わなければ誰でも出来てしまう業務であるとの話を聞き、驚きを感じました。私自身、あらためて臨床検査技師の国家資格を取得したことを無駄にしないためにも、常に勉強を怠らないようにすることの必要性を実感しました。

第 2 部では、当直時に注意すべき事項についての話がありました。採血管の種類や採血状況により検査結果が大きく変化する事例の紹介があり、採取された検体の背景には、常に患者が存在していることを意識することの大切さを学びました。

今回、このような機会をいただきありがとうございました。

医療法人 埼玉会 埼玉草加病院  
長谷川 千夏



私は、埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会に参加しました。

神山会長による日臨技・埼臨技についての講演では、技師会がどのような活動をしているか詳しく知る事が出来ました。また、技師の先輩である清水氏・中島氏による当直業務についての講演では、実際の体験によるアドバイスが多く、日常の業務にも役に立つ内容でした。

懇談会では学生時代にお世話になった先生や先輩、臨地実習先の技師さんと久しぶりにお話でき、やっと同じ舞台で頑張る仲間になれたと実感しました。他にも初めて知り合った方ともお話ができ、知り合うきっかけとなりました。

その後色々な勉強会に参加した際、懇談会で顔見知りとなった方が多く、技師同士の繋がりを実感し、改めて研修会に参加して良かったなと感じました。

さいたま市立病院  
山田 和貴



私は 6 月末に開催された埼玉県臨床検査技師会主催の新入会員向け研修会に参加しました。埼玉県臨床検査技師会の取り組みを神山会長直々にお話しいただいたほか、当直業務を行うにあたってのポイントについて清水氏、中島氏による講演を賜りました。

技師会の活動を知ることのできる貴重な時間となったことは言わずもがな、チーム医療が唱えられる昨今において多職種との連携に加え、検査技師内での横のつながりの重要性を実感する機会となりました。

今後とも今回の研修会のように他院の技師の方々とコミュニケーションを図ることができる貴重な機会がありましたら積極的に参加したいと思います。この度は誠にありがとうございました。



# 埼臨技ひろば

## 「TEAM SAMT 5回目を迎えました！」 がん患者さんを支え、共に歩く「リレー・フォー・ライフさいたま11th」 メンバー募集！

みなさん、お待たせしました。皆で24時間歩きとおす「リレー・フォー・ライフさいたま（RFL）」というがん患者さんを支援するボランティアイベントの時期がやってきました。これまで4年連続で埼玉県の主催する学会の市民公開講座の宣伝を兼ねて技師会チームとして参加してきました。例年、賛助会員の皆様も含めるとのべで100名以上の会員に参加していただき、他県の技師会からも注目を浴びるイベントになっています。今年は5年目を迎えチーム名を「TEAM SAMT」と短縮して気持ちも新たにスタートします。

ところでRFLってどんなイベント？一言で言えば「がん患者さんの支援イベント」です。雰囲気は運動会と学園祭とキャンプを一緒にしたような感じでしょうか。メインイベントはチームで丸となってタスキをつなぎ、がん患者さんの苦しみを分かち合おうという24時間ウォーキングです。自由でのんびりしたウォーキングなので、誰でも参加可能です。ステージでは各種イベントが催され、また各チームのテントでは参加チームがそれぞれ工夫をした出し物やバザーを行っています。夜には燈火の点灯で亡くなった方を悼むイベントもあります。子供から老人までそれぞれの興味とペースで楽しんでいただけます。



一流講師によるがんに関する講演も多数あります！

日時：9月14日(土) 12:00～15日(日) 12:00  
場所：さいたま市緑区農業者トレセン「緑の広場」  
多少の雨天は決行です

参加に資格はありません。当日徴収する参加費1,000円から経費を除いた分が寄付に充てられ、患者支援とがん研究支援に回されます。1時間でも2時間でもかまいません。大空と緑の中で、日頃の運動不足を解消するために、また健脚を活かすために一緒にのんびり歩きますか？

(文責・問合せ：県立がんセンター検査技術部 岩田・岡田048-722-1111 内線5225)

## 各研究班の研修会報告を致します。

### テーマ 一般検査（尿・髄液）の基本学

～ これで安心、新人さんから日当直担当まで ～

主催 一般検査研究班

実施日時：平成31年 4 月 26 日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 15集会室 点数：専門教科－20点

講 師：柿沼 智史（川口市立医療センター）

藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）

参加人数：会員106名 賛助会員 3 名

出席した研究班班員：柿沼智史 白石将也 藤村和夫 小関紀之 川音勝江 室谷明子

佐々木菜緒 深田茂則

#### 研修内容・感想など

尿定性検査については柿沼氏より、尿検体の採取法と定性検査を行う上での注意点について解説があった。特に比重については試験紙法と屈折計法では原理の違いから、乖離することがある。試験紙法の原理は陽イオン抽出法であり、簡便であるが陽イオンのみを捉えているため正確性にかける。一方、屈折計法でもグルコースや蛋白が多く含まれる尿では誤差が生じるため、補正が必要とのことであった。

尿沈渣検査については藤村氏より、尿沈渣成分、特に赤血球、白血球、細菌の鑑別のポイントについて説明があった。赤血球は潜血、白血球はエステラーゼ活性、細菌については亜硝酸塩と尿定性との一致、不一致を確認しつつ尿沈渣を見ること、さらには、それぞれの成分と類似する成分との鑑別点について症例もまじえて解説があった。

髄液検査については室谷氏より、検査の手技、迅速な結果報告の必要性、当直や日直時の精度を確保するためのトレーニング方法などの説明があった。なれない当直や日直者によるミスをなくすための工夫として、エッペンを検体180 $\mu$ L、サムソン液20 $\mu$ Lで固定して専用にすることや、簡易マニュアルの作成、検査システムからいつでも動画によるビデオマニュアルを確認できるなど、自施設の工夫を紹介された。

今回は新人や日当直担当者向けに企画した内容であり、とても参考になる内容であった。また、新人や日当直担当者の育成する側にとっても、大変参考になる内容であった。

(文責：小関紀之)

### テーマ ミクロトームの違いを体験する ～滑走式 VS 回転式

主催 病理検査研究班

実施日時：令和元年 6 月 2 日 13時00分～16時30分

会 場：東武医学技術専門学校 点数：専門教科－20点

講 演 1：薄切技術の基本と注意点

講 師：富永 晋（防衛医科大学校 臨床検査医学講座）

実 習 1：滑走式と回転式ミクロトームを使用した薄切

講 演 2：回転式ミクロトームの概要と運用事例

講 師：松本 佳子（ライカマイクロシステムズ株式会社）

泉 恵子（ライカマイクロシステムズ株式会社）

実 習 2：染色・標本の観察

参加人数：会員30名

出席した研究班班員：岡村卓哉 三鍋慎也 細沼佑介 高橋俊介 金泉恵美子 小島朋子

関口久男 今村尚貴 森田繁 荻真里子

研修内容・感想など

今回の研修会は趣向を変え実習を取り入れた形式で行われた。最初に薄切技術の基本と注意点について講義を受け、次に滑走式と回転式のマイクロトームの薄切実習を行った。薄切実習後は、回転式のマイクロトームの概要と運用事例に関してメーカーより解説があり、最後に実習で薄切した切片を用いてHE染色を行い各自標本の観察をして終了となった。

広く普及している滑走式マイクロトームでも自施設に設置されているタイプと違う為、参加者の中には戸惑いを見せる方もいた。一方、回転式マイクロトームは関東地方では導入している施設が少なく、連続切片の作製が容易に出来る様に驚嘆している参加者を多く見受けた。

今回の実習に際して準備に協力していただきました、東武医学技術専門学校に感謝を申し上げます。  
(文責：荻 真里子)



## テーマ 「採血を行う上での接遇と安全対策」

～ コミュニケーション能力と患者満足度向上のために ～

主催 血液・臨床化学検査研究班

実施日時：令和元年6月20日 19時00分～21時00分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講 師：高橋 徹（極東製薬株式会社）

司 会：蔵光 寛行（埼玉県立がんセンター）

参加人数：会員125名 申請中2名 賛助会員1名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美 中山智史 星聖子

巖崎達矢 永井謙一 安田達明 小林麻里子 北川裕太郎

研修内容・感想など

今回の研修会は、「採血を行う上での接遇と安全対策」というテーマで、高橋氏にご講演いただいた。厚生労働省の調査では、何を理由に病院を選んでいるか？の質問に、「医師や看護師が親切」が外来で4位、入院で3位に挙がるという。採血時の安全対策の重要性は言うまでもな

いが、接遇も軽視できない内容であることがうかがえる。

まず始めに、採血現場における接遇について、採血前・中・後の具体的な流れに沿って詳しく解説があった。総じて声掛けが大切とのことであったが、言葉だけでは不十分で、印象度としては、聴覚情報（声の大きさ、速さ、口調）や言語情報（話の内容）よりも表情や視線、身振りといった視覚情報の方が強いということであった。

次に、採血合併症として神経損傷、血管迷走神経反応、皮下血腫・止血困難、アレルギー・過敏症について、それぞれ原因、頻度、対応、予防に至るまでの丁寧な解説があった。特に対応や予防はとても具体的ですぐに役立つ内容であった。また、採血によって合併症が生じうることを、ほとんどの患者が認識していないことにも注意が必要とのことだった。

最後に標準採血法ガイドラインについて、動画を交えながらポイントごとに解説があり、採血手技に関して、普段知っているつもりでも、注意すべき穿刺部位や採血管の順序、採血法（採血針・翼状針、ホルダー・注射器）の利点や欠点など、実際には曖昧で不安な部分が多くあることに気付かされた人も多くいたのではと思う。講演では、溶血や駆血、採血量や体位といった採血手技が測定値に与える影響についても詳しく説明された。

採血について、普段なかなか学べる機会は少ないと思うので、採血に関わる一通りの事柄をまとめて勉強でき、とても有意義な研修会であった。

（文責：蔵光寛行）

## テーマ 基礎からはじめる腸内細菌の同定 ～ 性状確認培地を用いた菌名決定 ～

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和元年 6 月 22 日 13時00分～16時00分

会 場：株式会社 ビー・エム・エル総合研究所 点数：専門教科ー20点

講 師：森 圭介（株式会社 ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員27名 申請中1名 獣医師1名

出席した研究班班員：渡辺典之 永野栄子 酒井利育 砂押克彦 森圭介 毛利光希

小棚雅寛 今井芙美 千葉明日香

### 研修内容・感想など

今回の研修会は、基礎からはじめる腸内細菌の同定というテーマで講義ならびに実習を行った。はじめに講師の森氏から、確認培地の特徴や陽性例の説明があった。普段確認培地を見慣れていない参加者にとっては有意義であったと思う。実習は、参加者が3人1組になって、準備された20株の菌種同定を行った。少人数で実習を行えたため培地を観察する時間が十分に確保できたと思う。また微生物検査をはじめて間もない参加者もいたため研究班員が1テーブルに1人付き、質疑応答しながら実習を行った。供覧株の中には、日常検査では遭遇することの少ない菌株もあった。しかしそのような株は、国際化が進んでいる現在では輸入感染症として海外渡航者から検出されている。自施設で検出された時に今回の経験を役立てていただきたい。

また、各種資格試験では腸内細菌の性状同定は必須問題である。参加者の中にはこれらの受験者もいた。微生物検査も機械化がここ数年で大幅に進んだ。しかし機械では同定し難い菌種もいる。やはり基本である確認培地での性状同定をできる力を身につけておく事は微生物検査技師として必須である。今回の参加者が少しでも多くその力を身につけられたことを願う。

（文責：小棚雅寛）

テーマ **よくわかる輸血検査の必須事項：基礎から応用まで**  
— 実技に関する事前講習会 初級者・中級者 —

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和元年6月28日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科-20点

講演 1：血液型検査・不規則抗体検査

講師：小原 佑太（戸田中央総合病院）

講演 2：カラム凝集法・抗体解離（酸解離）

講師：宮澤 翔子（済生会川口総合病院）

参加人数：会員85名 賛助会員1名 非会員1名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 長谷川卓也 久保居由紀子 宮澤翔子 小原佑太  
野呂光恵

研修内容・感想など

今回の研修会は7月に行われる実技研修会の事前講習も兼ねており、輸血検査の基礎から応用まで、輸血前検査全般に関わる内容であった。初心者から指導者まで多くの会員が集まり、輸血検査への関心の高さが窺われた。

血液型、不規則抗体検査の講演では、検体の採取や有効期限、凝集反応の見方、精度管理など輸血前検査における基礎知識をはじめ、検査手技と結果の解釈、異常反応の原因と対応について症例問題を用いた解説が行われた。

カラム凝集法、抗体解離の講演では、検査法の特徴や原理のほかに、実技研修で使用するメーカーの試薬や機材を用いた操作手順や判定基準、結果の解釈など、実技研修で必要となる知識について、詳しく説明が行われた。また、今年の実技研修会（中級者向け）では、新たな取り組みとして、ダラツムマブ（多発性骨髄腫の治療薬）による偽陽性反応の対処法である「DTT処理」を行うため、手技などの説明があった。

安全な輸血を行うためには、適切な機器・機材・試薬を選択し、正しい手技で検査することが極めて重要となる。今回の研修会内容をよく理解して実技研修に臨んでいただき、スキルを身に付け、日々の業務に活用していただきたい。

（文責：野呂光恵）

## 求人案内

これまで掲載しておりました求人案内ですが、リアルタイムに会員の皆様に情報をお届けする観点から、2019年3月をもちまして埼臨技だよりへの掲載を終了することとなりました。

求人案内は、引き続き埼臨技ホームページ (<http://www.sairingi.com/recruit.html>) をご覧ください。



令和元年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第4回 理事会議事録

日 時：令和元年7月11日(水) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 矢作 松岡 小山 濱本  
奈良 長岡 小島 長澤 濱田  
伊藤 笹野 石井 神戸 鳥山  
阿部 猪浦 久保田

(監事) 遠藤 細谷

欠 席：(理事) 岡田 山口 神嶋 菊池

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

#### Ⅰ. 行動報告(令和元年6月12日～令和元年7月10日)

6月12日(水) 令和元年度第3回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、菊池、長澤、濱田、伊藤、石井、神戸、山口、阿部、遠藤

6月13日(木) 令和元年度定時会員総会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、濱本、奈良、長岡、小島、神嶋、菊池、長澤、濱田、伊藤、笹野、石井、神戸、山口、鳥山、猪浦、阿部、遠藤、細谷

6月14日(金) 埼玉県衛生研究所訪問：

神山、岡田

6月19日(水) 第19回わらび健康まつり

第1回実行委員会：伊藤

6月20日(木) 日臨技医療技術等国際展開推進事業会議：神山

6月21日(金) 第47回埼玉県医学検査学会

第8回実行委員会：奈良、菊池

6月22日(土) 日臨技総会：

神山、岡田、矢作、小山

6月22日(土) 日臨技理事会、支部長会議、診療報酬改定委員会：神山

6月25日(火) 埼臨技だより 第482号編集会議

(メール会議)：

奈良、長岡、小島、神嶋、菊池

6月25日(火) 公益インフォメーション入力作業：

神山、松岡、小山、濱本、石井

6月26日(水) 第14回深谷市福祉健康祭り

第1回実行委員会：笹野

6月28日(金) 埼臨技新入会員向け研修会：

神山、矢作、長澤、猪浦、阿部、伊藤、濱田、笹野

6月29日(土) 日臨技関甲信支部会議：神山

6月29日(土) 一都八県会長会議：神山、矢作

7月4日(木) 埼玉県医師会精度管理会議：

神山、山口、猪浦

#### Ⅱ. 報告事項

##### 1 事務局

- 6月14日(金) 埼玉県衛生研究所を訪問した。
- 第47回埼玉県医学検査学会来住野学会長より青年部委員に宛て、学会企画セミナー「RCPC」の講師依頼があった。
- 日臨技より「地域ニューリーダー育成研修会」受講推薦の依頼があった。
- 一般社団法人栃木県臨床検査技師会より「一般検査TOCHIGIセミナー」共催の依頼があった。
- 6月26日(水) 法務局へ理事・監事の変更の登記申請を行った。
- 6月30日(日) 公益法人インフォメーションに平成30年度事業報告を提出した。
- さいたま市より衛生検査精度管理委員の推薦依頼があり、三役にて協議後、当会から神山清志氏(重任)、河村憲一氏(重任)、武関雄二氏(新任)の3名を推薦した。
- 第17回生物試料分析科学会関東支部学術集会より、名義講演の御礼・決算書が届いた。
- 埼臨技事務所周囲の私道の掘削について許可した。
- 埼臨技事務所事務員採用の募集案内をハローワークに提出した。

##### 2 総務部

- 「埼臨技だより」第482号、7月15日発行予定
- 令和元年度 会員名簿7月15日発行予定
- 6月25日(火) 埼臨技だより 第482号編集会議(メール会議)を行った。
- 7月24日(水) 青年部委員会開催予定

##### 3 事業部

- 6月19日(水) 第19回わらび健康まつり第1回実行委員会が開催された。
- 6月26日(水) 第14回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会が開催された。
- 6月28日(金) 新入会員向け研修会が開催された。

##### 4 学術部

- 第1回編集委員会(メール会議)を開催した。  
本件に関し、学会優秀発表省の規定変更について上申されたが、再度、委員会にて審議を行い理事会へ再提出することとした。
- 埼臨技会誌(Vol.66 No.1 2019)の発行について、印刷工程上の不具合により発行日が7月20日以降になる。

##### 5 精度保証部

特になし

6 会 計 部

- 1) 令和元年度正会員費109名545,000円、入金金96名分96,000円 合計641,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金50,000円×1 合計50,000円の入金があった。
- 3) 株式会社石井印刷に埼臨技だより第481号印刷代94,430円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 7月4日(木)埼玉県医師会精度管理会議が開催された。

8 一都八県会長会議

- 1) 6月29日(土)一都八県会長会議が開催され、神山会長、矢作副会長が出席した。

9 日臨技関甲信支部

- 1) 6月29日(土)日臨技関甲信支部会議が開催され、神山会長が出席した。

10 日臨技

- 1) 6月23日(土)日臨技総会が開催され、平成30年度事業報告、定款一部変更、監事の再任が承認された。なお、議決権行使書の収集について会員の皆様に多大な協力をいただいたことを深謝する。

11 第47回埼玉県医学検査学会

- 1) 6月21日(金)第47回埼玉県医学検査学会第8回実行委員会が開催された。

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和元年度分)  
 令和元年7月1日現在  
 会員数 3,137名[平成30年度会員数3,027名]  
 (新入会員 224名)  
 賛助会員 69社[平成30年度 82社]  
 承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

- 1) 臨床検査技師養成校連絡協議会の委員変更について  
 大東文化大学 藤田 和博氏から築瀬 澄乃氏に変更。  
 承認された

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第47回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題

事務局

特になし

総務部

特になし

事業部

特になし

学術部

特になし

精度保証部

特になし

会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

# あ と が き

日中の暑さがホンの少しだけ和らぎはじめる頃、仕事帰りにふと見上げた空に輝く満月や星を見つけると、なんだか「お疲れさま！」と言ってくれているようで嬉しくなります。

夏、標高の高い高原キャンプ場に出かけては、シュラフに潜り込んで一晩中満天の星空を眺めるのが好きで、もともとの「星空好き」が高じてそう感じるのかもしれない。

最近ネットでは、魅惑の最新型プラネタリウムをはじめ、資格認定制度である「星のソムリエ」といった星空案内人と楽しむ体験ツアーや、星空の下でリラックスして行うヨガ、天の川を觀賞しながらのディナーなど、星空好きにはたまらない施設やイベントがたくさん紹介されています。

日頃頑張り過ぎの皆さん、時には検査室の機械音がする喧騒から離れて、ロマンチックな非日常の世界でご自身を癒してみたいはいかがですか？

(菊池 記)

